

# 時 栃 報 幼

題字／栃県知事 福田富一氏

第 142 号

令和2年12月20日

一般社団法人 栃木県幼稚園連合会

〒320-0032 宇都宮市昭和1-3-10 栃木県庁舎西別館

☎028(622)2821 FAX 028(622)2816

●編集人／堀 昌道 ●発行人／石嶋 勇

■栃幼連ホームページ <http://www.youchien.or.jp>



## 感謝状贈呈式

昨年十月に発生した台風十九号に伴う義捐金（一、二〇〇、三四九円）を栃木県への寄贈に対し、令和二年七月三日、栃木県幼稚園連合会事務局にて、感謝状贈呈式が執り行われた。

栃木県知事の代理として、こども政策課 田中島浩子課長より、石嶋理事長に感謝状が手渡された。

感謝状贈呈に際し、台風十九号に伴う義捐金にご協力いただきました、県内の



保護者の皆様、加盟園の設置者・園長・施設長の皆様にあらためて、深く御礼申し上げます。



## 栃木県産米贈呈式

令和二年九月二十五日、JA全農とちぎより、栃木県産米「とちほのか」「とちぎの星」「なすひかり」の三品種合計二、八八〇kgが贈呈された。JA全農とちぎでは「食の多様化が進んでいる現代で、栃木の将来を担う子どもたちに対して改めて日

本の大切な食文化であるお米のおいしさを実感してもらいたい」という思いから、贈呈された三品種それぞれ五kgは全加盟園一九二園に配布された。

当日は、と

ちぎテレビをはじめ地元新聞社の取材に対し、石嶋理事長は「各園では、保護者と一緒におにぎりにしたり、給食として提供できればと思います。食育の一環として、地元栃木県産米のおいしさを実感できる機会を作りたいと思います」とコメント。このような企画を立ててくれたJA全農とちぎ関係者の皆様に心より御礼申し上げます。



## 栃幼時報一四二号発刊に際し

広報委員長 堀 昌道

普段ならば、九月にこの号は発刊されているはずのだが、皆さんご承知のとおり、コロナ禍により、主なものでは、就職説明会中止、新採研宿泊研修中止、教研大会中止となるなど、計画されていた研修が変更または中止となり、八月二十六日に行われた広報委員会において委員の皆さんと慎重に話し合いをした結果、九月号と十一月号合併でも仕方がないだろうということで意見がまとまり、今号となった。

九月からは密を避けるために、リモートを併用した研修会も行われるようになり、何とか発刊にこぎつけたというのが実感だ。

色々な工夫をして研修を行っているので、リモートで音声が飛んでしまふなどのトラブルも見受けられた。しかしながらその原因をすぐに解決できるかという点、そこにいる人たちは専門家ではないということに配慮していただけたら助かる。もちろんそれらの問題は検証して是正しなければなりません。原因の究明には時間がかかる。リモートの場合には、何卒寛容に研修会に参加していただけたら幸いである。

またコロナが流行りだしてきた。栃幼連の英知で研修を行って、また合併にならないことを切に祈る。



# 研修会だより

## 第一回 保育テクニカル講座

期日 令和二年九月三十日(水)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 九十一名

講師 「身近な材料で簡単な工作」  
栃木県子ども総合科学館展示課  
課長 室岡 久男氏

「コロナ禍の中での今年度初めとなるテクニカル研修。」

第一回目は研修名にふさわしい、身近な材料を用いて制作する研修となっており、保育者にとっても即戦力となりそうなテーマである。

今回は栃木県子ども総合科学館展示課長である、室岡久男氏を講師として迎えての実践的な研修である。

氏は科学館で催事の企画や展示品の修理などを担当されていることもあり、受講する側にとつて親しみやすいかもしれないが、内容はとても科学的だ。今回の内容は①音のでも、②くるくるまわって飛ぶもの、③飾り物、の三つの制作を、それぞれの科学のポイントに沿って考えながら行う。材料は全て百円均一で揃うという。

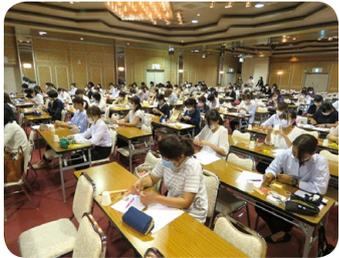
「音のでももの」では、紙がはためくような、うなり木に似た蜂の羽音が出るものや、紙コップと風船で作る笛のようなものを作る。手順は省くが、簡単にできそうであり、音が鳴ること子どもに興味を惹くには十分だろう。科学のポイントは「音ってなんだろう」となっている

が、声や楽器などの日常的に使っているものも、振動という点に着目するとまた違った観点から考えることができる。

「くるくるまわって飛ぶもの」では、紙コップを無駄なく使い、プーメランや竹とんぼに姿を変える。作る過程での、向きや角度といった小さな点でも出来上がりに差ができることもある。プーメランの先を紙コップの飲み口側にするこや、竹とんぼの羽にひねりを加えて、揚力を増すようにしたりと、些細なことでも変化が起こる。

「飾り物」では、ストローを使って「ピンメリ」を制作する。寡聞にして知らなかったのだが、フィンランドの装飾品だそう。今回は代替品としてストローでの制作であったが、本来は細い藁に糸を通し立方体などの形を作り、最終的には複数の多面体を繋ぎ合わせ、吊るし天井や壁に飾る装飾品である。今回はシンプルな八面体を制作するが、科学のポイントとして長さの分割と立体のかたちとなり、ダイヤモ

が、声や楽器などの日常的に使っているものも、振動という点に着目するとまた違った観点から考えることができる。



ンドの構造や、科学のテーマで身近にあるものとしてミョウバンの結晶などがある。子ども向けの制作としては難しく、先の二種に比べると遊び要素がないかもしれないが、クリスマスなどの飾りなどには良いかも知れない。

今回制作したものは、子どもたちでも作ることが出来る内容であった。しかし、保育者が保育に組み込む場合には「なぜ」「どうして」をある程度考える必要が出てくる。そんな時に、科学のような専門的な観点からの考察も重要になってくるだろう。これからの時代、情報は簡単に手に入る。保育を行う上でもエビデンスを求められるかもしれない。保育者は目の前の子どもたちにただ保育を行うのではなく、様々な視点、観点を持ち保育を行うことを心がけてもらいたい。

## 第二回 保育テクニカル講座

期日 令和二年十一月六日

会場 宇都宮グランドホテル

参加 百十四名

テーマ 「うちリモート参加者四十九名」

講師 ジャーナリスト・名寄私立大学特命教授  
名福寺ルンビニー学園  
ルンビニー幼稚園・保育園副園長  
猪熊 弘子氏

研修内容

① 幼児教育・保育でいちばん大切なことは、子どもの「いのち」を守る

ること。

② 学校事故に対する基本的な考え方

③ 安全な保育をするための具体的な方法

④ 質疑「トピック」

命を守る

子ども一人ひとりの存在を大切にし、守る。

何か起こったら時間がない。つまり事故を起こさない。

改めて「くうねるみずあそび」

小さい子だけの話ではありませぬ。見直ししましょう。

思いの外、危険一杯です。外傷があってもなくても内傷が心配です。

必ず参照しましょう。ガイドライン・指針・要領

コロナ対策も気をつけて心の健康にも注意すること

「組織が事故を引き起こす」

自園の「常識」を疑おう！

思い込み・怠慢・無視から死亡事故は起こる

重大事故は一人のミスではなく、園全体の保育に問題！

安全も「つながり」の中で築いていくもの

今回の講師は、保育のあり方や園の危機管理について、とてもわかりやすくお話しただけで猪熊先生ということ、期待感

いっばいで始まった研修だった。





連合会全体としての初めてのリモート研修のため、各種の確認で本論に入るまで時間がかかったが、「職員の健康のあり方」や「怪我に対する慣れ？」、「安全な環境とは」等、具体例を入れながら本質を突いてくれたため、会場全体が納得の渦で、とても貴重な時間となった。

いわれてみれば、「こんなこと知っているけど」…「そういうええもつと深く考えれば、こんなことは実は起こらなかったかも」

会場のあちこちから、無言のつぎやしが聞こえたような…「どの園でも経験があるということだろうか」今更ではあるが、今回の研修は、現場の先生たちが中心のものだったため、「園に戻ったら、上の先生に勉強した内容を伝えなさい」という講師の言葉に、「この場に、園の管理職も一緒にいれば新たな危機管理能力が、すぐに深まるのに、残念！」とも感じた筆者であった。

**第二回 保育テクニカル講座**

- 期日 令和二年十一月二十六日(木)
- 会場 コンサートホール
- 参加 百十四名
- 内容 「久保田雅人 工作研修会」紙の工作「紙つてすこい！」
- 講師 「わくわくさん」でおなじみの久保田 雅人氏

NHKの番組「つくってあそぼう」のワクワクさんでおなじみ久保田雅人氏を講師に迎え、園に戻ってすぐ子ども達と作って遊べる色画用紙を使った工作を楽しいおしゃべりと共に教わった。制作に入る前に、二十数年続けてきた番組の裏話などを聞かせてくれた。

最初の工作は、色画用紙を適当な幅で細く切り折るなどして形をつけ落として、投げたりしてその落ちる様子などを楽しんだ。また、適当な幅に切り、それを折ったりして先のほうが開いたり閉じたりする動きが出来るものができた。鳥の羽を模ったものをつけ動かすと鳥が羽ばたいているかのようだ。ただ作るだけではなく、実際の保育の現場で子どもたちの安全や、子どもたちが興味を持つような導き方、導入していかずとも教えることもあった。その他の季節に



ピッタリのクリスマスマスの飾りになるお星さまを色画用紙を折って切るだけで簡単に作る方法も教わった。最後にビニール袋を使って工作しそれでゲームをして楽しんだ。講師の久保田氏の魔法の言葉で受講者の先生たちも子どもになったように楽しんでいた。先ず、先生が楽しいと思うことで子どもたちの好奇心であったり、意欲であったりを引き出せるのではない。

**設置者・園長経営研修会**

- 期日 令和二年九月七日(月)
- 会場 コンサートホール(大ホール)
- 参加 百三名
- 内容 「うちリモート参加者五十名」リモート会議・研修会について(株)エス・コ
- 講師 マネージャー 松浦 健氏
- 内容 「子ども・子育て支援新制度五年の見直しと無償化の課題」コロナ以降の園運営のゆくえんは？」
- 講師 認定こども園マハヤナ幼稚園・ミルフィールユ保育園 理事長・園長 石田 明義氏



新型コロナウイルス感染症が拡大したことに伴い、当日の参加について、初めて直接会場に来る場するか、リモートによる二種類の参加方法で行われた。また、研修会の前に感染予防対策における用品の説明や、今後のリモート研修を実施するにあたり具体的な操作方法を

めた説明が行われた。研修の内容としては、平成二十七年に施行された『子ども・子育て支援新制度』が五年経過をし、その内容等の見直し・検討作業が行われ、どのように変化していくかといった説明がなされた。地域区分や公定価格、免許資格の特例延長、一号児と二・三号児の施設内における整合性など検討課題は多岐にわたるが、現場として私学の建学の精神を具現化することであり、複雑化した新制度の問題点や課題を解説していただいた。また、昨年十月から施行された『幼児教育保育の無償化』だが、一時間に保育時間が延長された影響を解説していただいた。認可施設と認可外施設が隔てなく無償化されたことで、保育の質の低下を懸念する声があがっており、認可外施設の認可促進の動きは我々に影響がでてくるため、しっかりとした対応が必要である。未曾有の困難となった新型コロナウィルス感染拡大により、全国の幼稚園・認定こども園運営に多大な影響が及んでいる。全国の園における対応事例やガイドラインをもとに、コロナ以降、幼稚園・認定こども園の経営・運営は想定される選択肢を示し、何を重点的に補完していったら良いのかを考えると、有意義な研修となった。





第一回 保育セオリー講座

期日 令和二年十月十九日(月)

会場 ホテルニューイタヤ

参加 百十一名

テーマ

「脳科学から見たアタッチメント(愛着)について」

講師 栃木県カウンセリング協会

山岡 祥子氏

ヒモ

親や教師の関わりが子どもインパクトのある切り口で



始まった講座では、近年の脳科学の研究により明らかになった知見をもとに、山岡氏が実際に対応した事例を交えながら講話が進められた。

愛着障害により発達障害のような症状が出るまでの過程には、脳の成長・発達が多く関与しており、中でも、脳の部位によって育ちの盛りが異なる「感受性期」に大きなストレスを受けることは、脳の萎縮や肥大につながってしまうことがわかった。

「虐待というほどでもない」という考えや、「しつけの一環」として行われているマルチリトメント

(不適切な養育)は、どの家庭にも潜みうることであるが、私たちも、子どもが傷つく行為はすべてマルチリトメントであることを忘れないでいたい。

本講座では、①脳の仕組みと心の成長について、子どもの健全な発達に欠かせない安定した「愛着(アタッチメント)」の必要性や「愛着システム」における感情制御、愛着障害で生じる症状、虐待などのトラウマによる後遺症が次第に症状化すること、世代間で連鎖することが解説された。

続いて、②「マルチリトメント(不適切な養育)」を受けた子ども(脳)における深刻な影響について、一般的な発達障害よりも虐待を受けた子に認められる脳の変化ははるかに甚大で範囲が広いことや、マルチリトメントの5つの種類、どの家庭にでも潜んでいるマルチリトメントについての身近な事例が紹介された。

最後に、③「愛着障害」からの回復を目指すための関わり方として、脳の傷は癒されることや早期対応の必要性、健全な「愛着システム」が育つ「親」の関わり方、母親以外の人との関係(教師も含む)も重要であることが解説され



山岡 祥子

た。

愛着障害と発達障害の見分けは非常に難しいことから、保護者への伝え方にも配慮が必要となるであろう。

近年は、スマートフォン等の便利な電子機器の普及により、子育て中の使用による希薄な関わりを目にするようになってきたが、今こそ子どもたちの健全な育ちのために知っておきたい多くの学びを得られた講座となった。

第二回 保育セオリー講座

期日 令和二年十一月十日(火)

会場 コンセーレ(大ホール)

参加 百四名

内容

「障害のある幼児などを含む保育の充実」『個別の指導計画』とその事例を中心に

講師

栃木県立聾学校小学部教員 黒川 貴広氏

講師は、

栃木県立聾学校幼稚部、現在は小学部にて子どもたちの保育に携わるとともに、県内の幼稚園・保育園等を訪問し多くの子どもや保護者の相談を受ける。



障害のある幼児を保育するにあたっては、「個別の指導計画」の重要性が増している。栃木県で今年作成した参考となるリーフレットを

発行した。本講座でもこのリーフレットをもとに障害をもつ幼児の事例を動画で見えていながら、「個別の指導計画」をうまく活用しながら、毎日の保育がより楽しくなるよう願うものである。

事例では、Rくん(年長児)を含むクラスの保育と、その変容についての紹介があった。その中で、「インクルーシブ保育」つまり「ともに育つ保育」を目指す。「Rくんと関わる周りの子たちの育ち」ではなく「Rくんを含めたクラスひとりひとりの育ち」を目指すものである。また個別指導計画も、障害児など特定の子どものものでではなく、園児ひとりひとりの個性に応じてなされなければならない。

たとえば担任の先生は立ち位置を意識して保育にあたった。特定の子とはあえて距離を取り、その子に聞こえるように別の子に話しかけ、状況をつかませた。逆に特定の子を動かしながら、まわりの子に同調させ遊びに参加させた。集団の機能や習性を巧みに利用することで、子どもたちは居場所を見つけ安心し、まわりと関わろうとする意欲を見せていた。



設置者・園長経営研修会

【期日】 令和二年十一月十三日

【会場】 ホテルニユーイタヤ

【参加】 百十七名

(うちリモート参加者七十二名)

【内容】 「幼児教育の現状と課題」

【講師】 文部科学省初等中等教育局

幼児教育課専門官 中村 有希氏

【内容】 「処遇改善等加算Ⅱの対象

となる研修について」

【講師】 栃木県保健福祉部

こども政策課 主任 石下 詩織氏

【内容】 「処遇改善等加算Ⅱの研修

受講履歴の管理について」

【講師】 栃木県保健福祉部

こども政策課 主任 高岩 重成氏

【内容】 「処遇改善等加算Ⅱに係る

栃木県幼児教育センター研

修受講の承認について」

【講師】 栃木県幼児教育センター

副主幹 前原 由紀氏

【内容】 石嶋理事長からの挨拶の

後、「幼児教育の現状の課

題」と題して、中村有希氏

(文部科学省初等中等教育局幼児教

育専門官)より講演をいただいた。

【内容】 新型コロナウイルス

又感染症対応・概

算要求・今年度補

正予算・新制度施

行五年後見直し・

預かり保育・幼小

連携、この五つの

トピックスに基づ



いて、詳しい説明がなされた。子どもの数が今後著しく減少する厳しい予測に立った上で、いかに子どもたちにより良い教育を提供できるか、出席者がそれぞれ模索を深める機会となった。続いて行政説明がなされた。「処遇改善Ⅱの対象となる研修について」と題して石下詩織氏(保健福祉部)より、「処遇改善等加算Ⅱの研修受講履歴の管理について」と題して高岩重成氏(保健福祉部)より、また「処遇改善等加算Ⅱに係る栃木県幼児教育センター研修受講の承認について」前原由紀氏(栃木県幼児教育センター 副主幹)より、それぞれ説明がなされた。



認定こども園委員会研修会

【期日】 令和二年十一月十七日(金)

【会場】 宇都宮グランドホテル

【参加】 七十一名

(うちリモート参加者四十四名)

【内容】 認定こども園における子育て支援

「保護者の心に寄り添う保育者をめざして」

【講師】 大阪教育大学 教育学部

准教授 小崎 恭弘氏

【内容】 児童福祉

法のなかで

定義されて

「保育士」と

は、「保育士」の

名を用いて、専門

的知識及び技術を

もって、児童の保

育及び児童の保護

者に対する保育に

関する指導を行う

ことを業とする

者をいう」とな

っている。すなわ

ち、子どもの保育

に加え、子育て

総合施設として

子育て支

援と家族援助が

求められる。

これまでの保育

では、子どもた

ちの最善の利益

となるよう保育

を行いつつ、保

護者の子育ての

サポートをして



子どもたちの健やかな成長のためには、家庭との連携が不可欠であるが、現代の社会では核家族化が進み、共働き世帯の増加により、家庭での保育がままならない状況になっており、現代の保育施設に求められることが大きく様変わりしており、今までの保育の在り方が通用しなくなってきている。そこで重要になってくるのが、保育士と保護者との信頼関係構築の大切さである。園・保育士が求めていることを満たしてくれない、保護者と保育士との関係性が良くない状態が続くと、不満へと繋がりが、クレームへと発展してしまう可能性がある。これからの保育士は、保護者のかかわり方のレパートリーをたくさん持ち、そのたくさんレパートリーの中から、保護者ごとに使い分けられる能力を身につけていくことが大切になってくる。また、連絡帳やクラス便りで、保育士の想いを伝え、保護者と積極的に接することが大切である。保育を通じて、家族の問題を発見し、子どもを中心とした援助を行いたい、家族のあり方や、子どもひとりひとりの力を強めることが求められる。家族が家族内で、問題を防ぎ、解決していく力をつけていくことができるようにすることが、家族援助として大切になる。



# 令和3年度 予算要望書

団体名：一般社団法人栃木県幼稚園連合会  
代表者名：理事長 石嶋 勇

要望事項等	継・新別 増額要望	要望事項	
		現行	要望
<p><b>【要望1】幼稚園運営費補助金・幼稚園教材費等補助金の増額</b> 運営費補助金の増額は、幼稚園経営の安定を図り、教育環境をさらに充実するためには欠かせません。国の増額が見込まれない中ですので、新潟県(16,900円、対比△10,900円)、茨城県(12,868円、対比△6,868円)と肩を並べられるよう、<b>県単補助金の増額</b>を要望します。 また、102条園対象の教材費等補助金について、地域の幼児教育の存続を図るために、増額を要望します。</p>	<p>継続増額要望</p>	<p>園児1人当/令和2年度 <b>196,100円</b> 国庫補助 24,300円 地方交付税 165,800円 県単補助 6,000円</p>	<p>園児1人当/令和3年度 <b>200,100円</b> 国庫補助24,300円(予定額) 地方交付税165,800円(予定額) 県単補助 10,000円</p>
	<p>継続増額要望</p>	<p>教材費等補助金 園児1人当 39,100円</p>	<p>教材費等補助金 園児1人当 50,000円</p>
<p><b>【要望2】幼稚園運営費補助金(処遇改善加算)の上限額24万円への増額</b> 新制度幼稚園・保育所・認定こども園では、「処遇改善Ⅱ」により最高月額4万円、年額48万円の処遇改善が園の負担無しに実現するのに対し、私学助成幼稚園で同額の処遇改善をはかっても、栃木県の処遇改善加算では年額3万円の補助しかなく、残りの45万円は園の負担となる仕組みになっています。結果、私学幼稚園教諭の処遇改善は遅々として進んでいないのが現状です。私学助成幼稚園における幼稚園教諭の確保・定着を促進するために、新制度園の「処遇改善Ⅱ」の年額48万円の半額、24万円を加算上限額としてくださるよう要望します。</p>	<p>継続増額要望</p>	<p>幼稚園教諭の処遇改善を行った園に対し、改善額の半額を上限3万円(年額)の範囲内で加算する。  総額1,039万円 (うち、県負担半分)</p>	<p>処遇改善額の半額を上限24万円(年額)に引き上げる。  総額約2,000万円 (うち、県負担半分)</p>
<p><b>【要望3】「栃木県幼稚園連合会補助金」の継続並びに増額</b> 教諭・保育教諭の資質向上は直接、教育・保育の質の向上を実現します。本連合会では、幼稚園・認定こども園の教諭・保育教諭の研修、設置者・園長の研修を通じて積極的に教育・保育の質の向上を図っています。コロナ禍の中にあっても、オンライン研修、園内研修の充実等、できる限りの工夫をしながら資質向上に取り組んでいるところです。 一方、社会福祉協議会が実施する「処遇改善Ⅱに係るキャリアアップ研修」の受講は大きく制限され、本連合会加盟園の教諭・保育教諭は受講できない状況となってしまいました。 今年8月17日、本連合会が「処遇改善Ⅱに係るキャリアアップ研修」の実施団体として認定(研修実施主体認定)を受けたことから、今後の研修について分野・回数・時間を増やしていく予定であり、それには経費増が見込まれます。つきましては、本連合会の研修会実施に対する補助「栃木県幼稚園連合会補助金」を継続していただくと共に、その増額を要望します。</p>	<p>継続増額要望</p>	<p>6,000千円</p>	<p>7,000千円</p>
<p><b>【要望4】3～5歳児(1号園児・2号園児)の副食費の無償化の早期実現</b> 「栃木県に住めば子育ての経済的負担が減る」というのは、子育て世帯にとっては大きな魅力のあるインセンティブになります。知事の公約(「福田とみかずの幼児教育かわら版」)にも、「市町とともに無償化することを目指します」とあります。近隣都県に先んじて実現することが求められます。早期実現を要望します。</p>	<p>新規</p>		<p>3～5歳児(1号園児・2号園児)の副食費の無償化の早期実現</p>
<p><b>【要望5】子育て支援事業等に対する補助金の増額</b> ①仕事と子育ての両立のために、預かり保育は大変重要です。幼稚園が行う預かり保育に対する補助金の増額を要望します。「わんぱく保育推進事業」 ②未就園児親子教室等の子育て支援活動を通じ、幼稚園が地域の子育ての拠点として、子育てにおける精神的負担の軽減を図る充実した機能を提供できるよう、補助金の増額を要望します。「子育てランド事業」 ③安心・安全な施設整備の観点から、園舎の耐震診断、耐震補強等にかかる費用の助成を要望します。「幼稚園耐震化事業費」</p>	<p>継続</p>	<p>わんぱく保育推進事業</p>	<p>わんぱく保育推進事業</p>
	<p>継続</p>	<p>子育てランド事業</p>	<p>子育てランド事業</p>
	<p>継続</p>	<p>幼稚園耐震化事業費</p>	<p>幼稚園耐震化事業費</p>
<p><b>【要望6】第3子以降保育料免除事業の対象拡大</b> 昨年10月の幼児教育・保育の無償化により、1号園児・2号園児とも、副食費4,500円(上限)が利用者の負担となりました。 第3子以降の2号園児については、県の第3子以降保育料免除事業の対象として、利用者負担となった副食費についても無償化されましたが、第3子以降の1号園児については、これまで自己負担だったという理由から本事業の対象とはなっていません。本事業の目的が多子世帯の経済的負担の軽減を図ることにあることからすれば、同じ県民として1号・2号の認定の別なく本事業の対象とされるべきと考えます。ぜひ、多子世帯の負担軽減の実現を要望します。</p>	<p>新規</p>		<p>第3子以降の1号園児における副食費の無償化</p>
<p><b>【要望7】子ども応援 多子世帯保育料免除事業の創設</b> 栃木県では、平成28年度に第3子保育料免除事業費が創設され、18歳未満の兄妹から数えて第3子以降の子どもの保育料が無償化となり、転入者の増加につながりました。要望4は、この第3子保育料免除事業費を「子ども応援 多子世帯保育料免除事業費」に発展させるという提案です。 具体的には、「18歳未満の子どもが3人以上いれば、就学前の施設に通う子どもが何番目の子どもであるかにかかわらず、3～5歳の副食費を無料にし、0～2歳の保育料を無料にする」というものです。 子どもさんの世帯を応援するメッセージが明確に伝わる事業であり、3人目を生もうという気持ちにさせる画期的な事業であります。どうか、国・他県に先んじた施策として発表し「子育てするなら栃木県」をアピールして「とちぎで子育てしたい」を実現していただくことを要望します。 以上</p>	<p>新規 発展的継続</p>	<p>第3子以降保育料免除</p>	<p>3人いれば保育料も副食費も免除  →転入者増加 →もう一人！促進</p>

## 令和3年度 予算要望書について

12/14栃木県議会相馬議長と、5期目の当選を果たし栃木県の未来を託された福田知事に、来年度に向け上記要望書を提出させていただきました。

今後とも各園のご協力をいただきながら、更なる教育・保育の質の向上を目指して参りたいと思います。(振興委員長 富川 将)





新規採用幼稚園教諭等研修 第二日

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を鑑み、第一日の開催は見送りでしたが、集合研修の内容を改めて精選し、第二日、三日、九日の三日間を午前午後の二部制にして実施することになりました。

九月十六日には第二日を総合教育センターで実施しました。

今年度は保育参観を保育DVD視聴に代え、「人やものに関わる幼児・園児の姿」「環境の構成と援助」について演習を行いました。受講者からは、「子どもたちが安心して過ごせるように気持ちを受け止めて保育をしていきたい」「子どもの興味・関心をしっかりと捉えて環境の構成をしたい」「遊びの広がる環境を具体的に考え、意図・願いをもって関わっていききたい」などの感想がありました。



また、宇都宮大学共同教育学部附属幼稚園の岩淵千鶴子先生より、「幼児期の保健管理と危機管理」について講話がありました。受講者からは、「安全面を配慮することはもちろん、子どもが自発的に関われるような環境を設定していきたい」「子ども一人一人の様子をよく観察し、健康状態をしっかり把握することが大切だと思う」「子どもが言葉や行動でSOSを表現していなくても、視線、表情、動き、つぶやきなどをよく観察し、目には見えない内面的なものを考える大切さを学んだ」などの感想がありました。



子どもへの心に寄り添いつつ、保育者の専門性を高めていけるよう職員一同支援させていただきます。

幼稚園等教職五年目研修 第二日

第一日を中止とした本研修ですが、十月二十日に第二日を総合教育センターで実施しました。例年二日間で行っている研修内容を精選し、午前後の二部制で実施しました。

今年度は「教職五年目への期待」「幼児期に育みたい資質・能力」「一人一人を大切にしたい集団づくり」「障害のある幼児・園児などへの指導」について、講話を行いました。

受講者からは、「五年目という責任感とまだ五年目という純粹な気持ちとどちらも大切にしていきたい」「一人一人のつながりを大切に、子どもの気持ちやつぶ



一人一人の様子をよく観察し、健康状態をしっかり把握することが大切だと思う」「子どもが言葉や行動でSOSを表現していなくても、視線、表情、動き、つぶやきなどをよく観察し、目には見えない内面的なものを考える大切さを学んだ」などの感想がありました。



第一日が中止となりましたが、受講者の笑顔と「日々の保育に悩んでいたが、同期に会え、この研修で学ばれた」という声を聞き、本研修の重要性を再確認しました。園の中核を担う受講者の方々の力となる研修にしていきたいと思えます。

トピックスセミナー  
「子どもの多様性を尊重した園経営とは」

十月二十九日にコンソーレで実施しました。東京都立大学名誉教授の浜谷直人先生を講師に迎え、インクルーシブ保育とはどのような保育か、多様性の本質とはいかなるものか、などの講話から、自園の経営を振り返っていただきました。受講した園長先生方からは「大人の概念をまず変えることが大切」「職員同士の伝え合いや学びの機会を増やしていきたい」などの感想がありました。



**受講の記録の配付が始まりました**  
本年度九月より、幼児教育センター主催の研修に参加された先生方に「受講の記録」を配付しています。処遇改善に生かすなど、必要に応じてご活用下さい。

〇〇〇〇研修  
2020.〇.〇  
受講時間：〇.〇時間  
発行 2020.〇.〇  
栃木県幼児教育センター

☆受講時間は0.5時間(30分間)単位で記載してあります。  
☆複数日にわたる研修においては、受講時間をまとめて最終日に発行します。

これからの研修

●十二月二十五日(金)

新規採用幼稚園教諭等研修 第三日(集合研修・半日二部制での開催)

●一月三十日(土)

栃木県教育研究発表大会(幼小連携部会) 実践発表表

認定こども園仁神堂幼稚園 主幹教諭 守屋和美先生、他

●二月五日(金)

スタートカリキュラム講座

●二月九日(火)

新規採用幼稚園教諭等研修 第九日(集合研修・半日二部制での開催)

●二月十六日(火)

幼稚園等教職五年目研修 第三日(一日開催)



### こども政策課だより

#### 一月始業日現在の園児数調べの実施について

運営費補助金及び教材費等補助金の変更交付に当たり、一月初旬に、一月の始業日現在における在園児数等を御報告いただきます。詳細については、別途文書でお知らせしますので、期限内の提出をお願いいたします。

#### 運営費補助金及び教材費等補助金に係る変更交付申請書の提出について

本年度に入園した満三歳児分等の一般補助や特別支援教育と地域子育て推進事業の特別補助に係る変更交付申請書（新制度移行園は交付申請書）については、運営費補助金、教材費等補助金ともに一月下旬に御提出いただく予定です。詳細については、別途文書でお知らせいたしますので、期限内の提出をお願いいたします。

#### 子育てランド事業に係る実施記録について

子育てランド事業を実施している園においては、各実施事業の参加人数や活動内容等の記録を実施報告書提出時に添付していただきます。

で、必ず記録を取っていただくようお願いいたします。

#### 処遇改善加算Ⅱの要件となる研修受講について

新制度移行園や認定こども園について、処遇改善加算Ⅱの要件となる研修実施団体として栃木県幼稚園連合会を認定しました。

各園においては、職員の計画的な研修受講と、適切な受講履歴の管理をしていただきますようお願いいたします。詳細については別途送付している文書を御参照ください。

#### 園舎の耐震化の促進について

東日本大震災以降、園舎の耐震診断の実施・耐震化がより一層求められています。

本県の私立幼稚園等の耐震化率は、平成三十一年四月一日現在で八十七・〇%ですが、全国平均九十一・五%と比べ、依然低い数値となっております。

令和三年度においても引き続き、国庫補助制度の活用による耐震化を促進したいと考えておりますので、耐震化（建替・補強等）を予定する場合は、市町の担当課も含めて早めに御相談くださいますようお願いいたします。

今後とも、園舎の耐震化に取り組んでいただき、安全・安心な教育環境の整備をお願いいたします。

### 令和三年 一～三月までの事業予定

1月7日	※ 中堅幼稚園教諭等資質向上研修1→中止
1月8日	保育セオリー
1月18日	認定こども園委員会研修
1月22日	設置者・園長研修会
2月5日	※ 幼小連携推進者養成研修→中止
2月9日	※ スタートカリキュラム講座
2月15日	※ 幼小連携推進者養成研修→中止
2月16日	※ 新採用幼稚園教諭等研修集合研修 資質向上研修
2月18日	※ 幼稚園等教職5年目研修
2月26日	設置者・園長研修会
	0・1・2歳児研修
	※ は幼児教育センター事業

### 令和三年度 主な事業計画

4月2日	新採教諭研修
5月20日	栃幼連 定時総会
7月8日	栃幼PTA連 総会
7月11日	合同就職説明会
7月28日	新採教諭研修
8月13・20日	第88回 栃木県幼稚園教育研究大会
10月22日	栃幼PTA連 振興の集い (高根沢町・高根沢町民ホール)

### 慶事

- 令和二年度 令和二年度 秋の叙勲  
瑞宝双光章（教育功労）  
聖幼稚園  
理事長・園長 金子耀誉 先生
- 令和二年度 秋の叙勲  
瑞宝双光章（教育功労）  
瑞宝双光章（教育功労）  
理事長・園長 金子耀誉 先生
- 私立学校審議会委員功労者  
認定こども園やすづか幼稚園  
理事長・園長 大久保信男 先生
- 私立学校審議会委員功労者  
認定こども園  
理事長・園長 石嶋 勇 先生
- 令和二年度 秋の叙勲  
瑞宝双光章（教育功労）  
聖幼稚園  
理事長・園長 金子耀誉 先生

### 編集後記

今年はずっと夢と希望が溢れる年になるはずだった。一九六四年以来五十六年ぶりの開催地が東京のオリピック・パラリンピック。しかし、東京二〇二〇オリピック・パラリンピックは、新型コロナウイルス感染症の影響により二〇二一年に延期となった。新型コロナウイルス感染症の影響を受けたのは国を挙げての行事だけでなく、地域の行事、学校の行事等、私たちを取り巻く環境はこれまでにない対応に迫られる一年となっていった。

八月から十二月の園の行事には、運動会や発表会、作品展等、子どもの成長の節目となる大きな行事を予定していた園が多くあっただろう。未だ出口の見えない状況での開催の在り方をめぐっては、改めて行事そのものの意義を考えさせられた。対応に迫られる開催ではなく、コロナ禍での各行事を迎え撃つ気持ちを持ってなんとか開催当日を迎えることができた。改めて制限される生活の中でも最大限に自分の力を発揮しようとする子どもや教職員の姿、それを後から支えてくれていた保護者の姿には感銘を受けた。

ワクチンの開発が話題となっているが、安心して受けられる日が来るのはまだ少し先だろう。しかし、今必要とされているものは、手探りであっても、どんなに過酷な状況にあっても、子どもの利益を第一に考えられる教育者の存在だろう。これらも皆様と共に、この未曾有の事態を乗り越えていきたいと思う。

(虹ヶ丘認定こども園 月江 正太郎)